

コスタリカ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在コスタリカ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	3	5	217	10	44	569	13	49	786

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

コスタリカの日本語教育は、1978年、コスタリカ大学（UCR）本校（サンホセ県モンテス・デ・オカ市）における日本語の選択第二外国語としての導入をもってスタートした（1977年に、この日本語講座へのJICA海外協力隊派遣が開始された）。非営利団体（2009年よりコスタリカ日本人会）が運営する「日本文化教室（旧日本文化センター）」でもこの頃から日本語講座を開講した。なお、同教室は、2014年に私立の語学学校「日本文化センター」として独立し、国内で学生数が一番多い日本語学校として現在に至る。

1990年代前半にはUCR日本語講座の授業数が増える一方、UCRと並びコスタリカ有数の国立総合大学と称されるナショナル大学（UNA）の文学言語学部（エレディア県エレディア市）で、1988年に第二外国語としての日本語講座が設置され、1992年にJICA海外協力隊（日本語教育隊員）の派遣が始まった。1997年にはUCRオキシデンテ校（アラフェラ県サンラモン市）に対するJICA海外協力隊（日本語教育隊員）の派遣が開始さ

れ、それまで首都圏のみで行われていた日本語教育の地方展開の皮切りとなった。

この他、1992年に幼稚園から高校まで一貫教育を実施しているラ・グラン・エスペランサ学院（サンホセ県サンタルバラ市）で日本語が必須科目として採用されていたが（2022年12月時点、閉校を確認）、現在は高等教育以下で日本語を教えている機関は存在しない。UCR本校及びオクシデンテ校、並びにUNAで社会人向け講座が開かれていたが、パンデミックを機に閉講され、現在に至る。

2000年に入ってから私立の語学学校で日本語を取り入れるところが出始め、2009年にCIDI（サンホセ市。2020年に閉校）、2011年にNLA（New Learning Academy、モラビア市）で日本語講座が開講されるようになった他、数校で日本語コースが設置されている。

2015年、当国で日本語教育における中核的な存在として活躍しているコスタリカ日本語教師会が、国際交流基金（JF）から日本語教育拠点としての認定を受け、JFにほんごネットワーク（さくらネットワーク）に加盟した。同年8月には同教師会が中心となって中米カリブ地域の枠組みで初めて中米カリブ地域日本語スピーチコンテストを実施。また、同年12月には中米・カリブ地域ではじめてとなる日本語能力試験（JLPT）を開始し、2025年で第9回目の開催（2020、2021年を除く）となった。同試験の実施は当国及び近隣諸国の日本語学習者のモチベーションにもなっている。

2020年に発生したパンデミックの影響で、オンライン授業システムが発達し、現在でも学校または個人でオンライン講座を開設するところが多くなった。

背景

コスタリカは日本とは地理的に遠く、経済的影響が少しあった程度であり、過去においては日本語への関心が必ずしも高くなかったが、さまざまな日本文化を通して日本語への関心が高まっている。特に、青少年を中心としたアニメ・マンガ、コスプレなど、日本のポップカルチャーの人気は非常に高く、日本のアニメは頻繁にテレビで放映されている他、アニメグッズショップやメイド喫茶などもあり、また、複数のアニメ愛好団体やポップカルチャー普及を目的とする現地企業が年間を通してアニメ・マンガ、コスプレ、アニメソング・カラオケ大会といったイベントを企画、実施している。また、空手、柔道、合気道、剣道などの日本武道も盛んであり、これらをきっかけに日本語や日本文化に関心を持つ若者も増えてきている。

また、近年の円安、コロナ高の影響もあり日本旅行がブームともいえるほど、観光目的で日本を訪れる者が増加した。日本が身近に感じられるようになり、日本語学習意欲も向上しつつある。

特徴

コスタリカにおける日本語教育の特徴として、「異文化・異言語への興味」から学習を始める者、「日本への留学希望などの理由」により学習を始める者がいる一方、上記のような若い層を中心に、「ポップカルチャーを中心とする日本文化への興味から、マンガや日本のポピュラーソングを日本語で読みたい、あるいは、歌いたい」といった動機から日本語を学び始める学生が多い点が挙げられる。

学習レベルは未だ発展途上段階にあり、複数のレベル設定を行っている学習機関の中上級相当コースでも実用水準へ到達するのは難しく、それ以上のレベルを求める者は、個人学習もしくは個人レッスンを受けるしかないのが現状である。しかしながら、2015年に中米カリブ地域で初めてJLPTをコスタリカで実施したことや同年から初めた中米・カリブ地域日本語スピーチコンテストなどが学習者のモチベーションとなり、コスタリカ人の日本語レベルは徐々にではあるが確実に上がってきている。また、JLPTはN5受験者が圧倒的に多いというわけでもなく、近年N4とN5の受験者数はほぼ同数である。さらにN4、N3への受験者数が増加傾向にあることがこれを物語っている。また、日本語学習者数も増加傾向にあり、現在の年間平均学習者数は約800名

程度、人口 10 万人当たりの学習者数では中米カリブ地域（メキシコ、パナマ含む）で 1 位になっている。

最新動向

近年、アプリやオンライン教材を活用して自学自習する学習者が増加している。

中米カリブ日本語教育セミナーは毎年開催されており、2024 年はパナマ、2025 年はエルサルバドルにて開催された。中米カリブ日本語教育ネットワークに加盟している 10 か国及び日本、メキシコから、約 30 名の参加があり、同地域の日本語教師の連携強化、日本語教育の推進、質の向上に繋がる活動も積極的に行っている。コスタリカは全セミナーに参加している。

2025 年 12 月には、第 9 回目となる JLPT が実施され、コスタリカ国内外から約 200 名が受験した。

日本語学習者相互の親睦を深めるとともに、日本の文化、社会、教育などに関する理解を増進することを目的として実施していた日本語学習者大運動会、日本語学習者文化祭などもパンデミックの影響により一時中止していたが、2024 年以降、順次再開を予定している。

コスタリカでは日本語学習者数が増加傾向にあり、また、いくつかの教育機関（コスタリカ工科大学（TEC）など）から日本語講座開講希望が寄せられている。他方、コスタリカの日本人日本語教師が減少傾向にあるため、これら潜在的日本語学習意欲者のニーズを拾いきれていない状況にある。そのような背景からコスタリカ日本語教師会では、JF・日本語教師長期研修プログラムなどによりコスタリカ人教師の育成を図りながら、同国における日本語教育の普及と発展に努めている。

2024 年 12 月、アラフエラ県パルマレス市（サンホセから車で 1 時間半）に、元国費留学生のイニシアティブのもと、当館及びパルマレス市の協力を経て、パルマレス市公立図書館に西部日本センターが創設された。現在、そろばんや日本語教室、マンガ講座の他、日本関連図書やマンガ本の貸し出しを行っている。2025 年 4 には、公益財団法人日本財団による「READ JAPAN PROJECT」を通じて、106 冊の日本及び日本文化に関する英文書籍が提供された。また、日本大使館との共催で日本文化フェスティバルも開催。

教育段階別の状況

初等教育

公立・私立の初等教育機関では、日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

公立・私立の中等教育機関では、日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

コスタリカ大学（UCR）本校及びオクシデンテ校並びにナショナル大学（UNA）において、それぞれ日本語コースが選択第二外国語として開設されている。

学校教育以外

サンホセ首都圏を中心に、私立の語学学校（日本文化センター、NLA など）が一般向けに日本語講座を設けており、その学習内容は学習者のレベルに応じており、JLPT 対策講座などの学習者のニーズに合わせたコースも開講している。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

- 就学前教育 (Preescolar) 5 年間
- 初等教育 (Primaria) 6 年間
- 中等教育 (Secundaria もしくは Media) 5 年もしくは 6 年間
- 高等教育 (Superior) 4 年間以上

義務教育は就学前教育の最終 2 年間、初等教育の 6 年間、中等教育の 5 年もしくは 6 年間で義務教育。そのうち、初等教育、中等教育の始めの 3 年間の計 9 年間で一般基礎教育期間 (Educacion general basica) と呼ぶ。

教育行政

コスタリカの教育機関は、基本的にすべて教育省 (Ministerio de Educacion Publica) の管轄。但し、高等教育については、直接的には国家大学学長審議会 (Consejo Nacional de Rectores) が監督の任に当たる。

言語事情

公用語、国語ともスペイン語。

但し、国内各地の先住民居住区ではブリブリ、カベカル、グアイミなどそれぞれの民族語 (idioma materno : 母語) も使用されており、(スペイン語を公用語として習得することを前提に) 二言語教育を採用している教育機関もある。

外国語教育

公立の初等教育においては、従来国語 (スペイン語) のみの教育が一般的であったが、20 世紀末頃から英語の授業を取り入れる学校も増加している。中等教育以降においては、英語が必須科目。第二外国語 (主にフランス語) を取り入れる中等教育機関も増えている。

私立学校は学校によって学習開始時期、学習言語が異なるが、ほとんどの学校が初等教育から英語を必須科目としている。

国立大学の公開講座を中心にドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ロシア語、アラビア語の語学講座が開講されている。特に、中国語は、2009 年 8 月にコスタリカ大学 (UCR) 内に孔子学院が開設されてから、ナショナル大学 (UNA)、国立技術大学 (UTN) や国立遠隔大学 (UNED) などでも公開講座として中国語の語学講座が開講された他、私立の語学学校などで中国語の語学講座が開講され、学習者数は把握できていないものの、相当数のコスタリカ人が中国語を学習しているとされる。また、韓国語は、2010 年 2 月に UNA、2013 年に UCR で韓国語講座が開講され、2014 年に UTN、2020 年 7 月に UCR 内で世宗学堂が設立された。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

JICA 日本語教育ボランティアが独自に作成した教材が、コスタリカ大学（UCR）とナショナル大学（UNA）にて用いられている。

学校教育以外

日本で出版された教材（『できる日本語』『みんなの日本語』『まるごと 日本のことばと文化』など）が使用されている他、独自の教材（教師自作教材など）が用いられている。

IT・視聴覚機材

多くの日本語教育機関（学校教育、語学学校、個人のオンライン講座など）でインターネット上にあるさまざまな学習ツールが用いられている。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

大学の正式教員として教壇に立つ場合、日本語教育関連の修士号を所持していることが必須だが、実際に該当する者はほとんどいない。JICA ボランティアが教える場合、同資格は必要とされない。

学校教育以外

日本語教師としての特段の資格要件はないが、言語のみならず、日本文化・日本事情についても幅広い知識と教授能力が要請されることが多い。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関（プログラム）はない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

コスタリカ大学（UCR）本校及びオクシデンテ校、ナショナル大学（UNA）では JICA ボランティアが日本語講座を担当している。その他民間語学学校においては、一般に日本人教師もいるが、コスタリカ人教師が多い。

教師研修

JF メキシコ日本文化センターが不定期に実施する研修に、当国日本語教師が自主的に参加している。また JF が開催する日本語教師研修（短・長期）に、コスタリカ人教師が毎年派遣されている。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2007年2月に「コスタリカ日本語教師の会」発足。随時、情報交換や勉強会を行っている。また、日本語教育セミナー、日本語弁論大会、JLPT などの企画・運営について意見交換も行っている。

2009年9月、コスタリカ日本語教師会が中心となって、中米・カリブ地域における日本語能力と日本語教育能力の向上及び同地域における日本語教師間の交流の場として、中米・カリブ日本語教育ネットワーク（中南米地域における最大の日本語教育ネットワーク）が設立された。同ネットワークでは毎年の中米カリブ日本語教育セミナーを開催している他、2015年8月には第1回中米カリブ地域日本語スピーチコンテストを開催した（2024年12月時点で、第4回を実施）。また、同ネットワークは、オンラインによる日本語研修会や俳句コンテストを行うなど、精力的に活動を継続している。

[教師会・学会一覧へ](#)

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

なし

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年12月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

コスタリカ大学 オキシデンテ校 哲学・芸術文学部 1名
 ナショナル大学 言語哲学学部 2名
 コスタリカ大学 文学部現代言語学科 2名

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

- | | |
|----------------|---|
| 1978年 | ・コスタリカ大学（UCR）で選択第二外国語として日本語を導入と同時に、同学への最初の JICA 海外協力隊員（以下、JOCV）日本語教育隊員を派遣 |
| 1985年ごろ | ・日本文化教室（現：日本文化センター）で日本語講座開始 |
| 1993年 | ・ナショナル大学（UNA）の文言語学部への最初の JOCV（日本語教育隊員）を派遣 |
| 1998年 | ・UCR サンラモン分校への最初の JOCV（日本語教育隊員）を派遣
・UCR にて社会人向け日本語講座開始 |
| 2000年 | ・第1回日本語弁論大会を在コスタリカ日本国大使館、コスタリカ日本語教師会及び JF との共催で開催（以降、2015年、2020～21年を除き、同大会を毎年開催（2025年までで延べ21回開催）） |
| 2002年 | ・コスタリカ工科大学（TEC）にて社会人向け日本語講座実施 |
| 2009年 | ・第1回中米・カリブ日本語教育セミナー開催（於：コスタリカ） |
| 2010年 | ・第2回中米・カリブ日本語教育セミナー開催（於：コスタリカ） |
| 2013年 | ・Casa Manga、コスタリカ大学（UCR）グアピレス校で公開講座開始 |

2015 年

- ・ Trade Station 社で社員向け日本語講座実施
- ・ 第 7 回中米・カリブ日本語教育セミナー開催（於：コスタリカ）
- ・ 第 1 回中米・カリブ地域日本語スピーチコンテスト開催（於：コスタリカ）
- ・ JF がコスタリカ日本語教師会をコスタリカにおける日本語教育拠点（さくらネットワーク）に認定
- ・ JLPT 実施（中米・カリブ地域初開催）

2016 年

- ・ 第 8 回中米・カリブ日本語教育セミナー開催（於：コスタリカ）
- ・ コスタリカの日本語教員がメキシコシンポジウム（日本語教師研修）に参加

2017 年

- ・ コスタリカ人日本語教師がメキシコで開催の日本語教師夏期短期集中講座に参加
- ・ コスタリカ人日本語教師が南米スペイン語圏日本語教育連絡会議に参加
- ・ コスタリカ日本語教師会 Facebook による日本語教育情報発信開始

2018 年

- ・ 第 1 回日本語学習者大運動会の開催
- ・ コスタリカ人日本語教師がメキシコで開催の日本語教師夏期短期集中講座に参加
- ・ 第 1 回日本語学習者文化際の実施

2019 年

- ・ 第 2 回日本語学習者大運動会の開催
- ・ コスタリカ人日本語教師がメキシコで開催の日本語教師夏期短期集中講座に参加
- ・ コスタリカの日本語教員がメキシコシンポジウム（日本語教師研修）に参加

2020 年

- ・ コスタリカの日本語教員がメキシコ日本語教師会主催の日本語教師夏期短期集中講座にオンラインで参加
- ・ コスタリカ日本語教師会主催で第 1 回オンライン日本語教師研修会（中米・カリブ地域の教員対象の研修会）の実施
- ・ ビデオ日本語弁論大会の実施

2021 年

- ・ コスタリカの日本語教員が第 12 回中米カリブ日本語教育セミナー（オンライン）に参加

2022 年

- ・ コスタリカの日本語教員が第 13 回中米カリブ日本語教育セミナー（オンライン）に参加

2023 年

- ・ 第 14 回中米カリブ日本語教育セミナーを開催

2024 年

- ・ 第 15 回中米カリブ日本語教育セミナーに参加
- ・ 中米カリブ地域日本語スピーチコンテストにコスタリカ人発表者も参加（トリニダード・トバゴにて開催）
- ・ 西部日本センターがパルマレス市に開設され、日本語教室を開講。

2025 年

- ・ 第 16 回中米カリブ日本語教育セミナーに参加

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）